

---

# 『既視感』

梅花空木

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
『既視感』

【Nコード】  
N7703K

【作者名】  
梅花空木

【あらすじ】  
微睡みの中で現れたのは…名前も聞けなかったあいつだった。その彼は今…？

（前書き）

勇が小さな時、迷子になったのはふたりが通っている学校がある町です。（勇は気づいてない。）

あと、時雨の父はパン屋をしていたということをご理解いただいた上で読みください。

父の転勤で各地を転々としていた俺は『友達』なんてもちろん作れなくて…それが当たり前前みたいになつていたのに…。

「ひみつだぞ？オレはジャムおじさんみたいになつて、アンパンマンよりすごい『せいぎのみかた』をつくるんだ！」目を輝かせて自分の夢を話したあいつ。

（今どうしてんのかなあ…。）柄にもなく昔のことを思い出した。

「あーのーさあ、いさむくん？ヒトに焼きそばパンを大量に頼んどいて、自分は呑気にお昼寝ですか、そうですか。…良い御身分ですね？」顔をヒクヒクとさせながら、時雨が勇の横に立つ。

「あ、もう帰つてきたの？案外早かつたね。」ぱちつと目を開き、しれつと返す。

「…『早かつたね』じゃねーよ！ヒトがせっかく自習だから気持ちよく寝てんのに、『焼きそばパン、焼きそばパン』ボソボソ横から囁きやがつて！うるせーつてんだよ！！」バンツと勇の机を時雨が叩く。

「そんなこと言っていーんだ？自習のプリント写させてあげたのは誰だつたかなあ？」意地悪気に笑う。

「だつ…だから！そ、それは！コレでチャラでいいんだ…ろ！？」時雨がわたたと焼きそばを勇の前に出す。勇に借りがあるので逆らえない様だ。

「確かに、焼きそばパンでいいとは言つたけど…俺は『いっぱい』つて言つたんだよ？こんなの『いっぱい』じゃないね。つまり？俺が満足するまで、毎日時雨のオゴリつてこと！」今度は勝ち誇つた様に笑つて見せる。

「……っ。」時雨ががくつと肩を落とす。

（本当、時雨って面白いなあ。）

その様子を愛しそうに見ながら、焼きそばパンに手を伸ばす。タダなので、いつもの3倍は美味しい気がする。本当はお礼くらい言ってもいい気がするが、言うとな敗けのような気もするので、敢えて言わない。

「お前なあ、そんなもんばっか食ってるから、いつまでもなまっちろくて、細いんだよ。…そーいや、またこないだ女と間違われてナンプパされたとか言ってたよな？ダッセー！」弁当箱を開きながら時雨がからかう様に笑う。

「…俺が何を食べたってお前には関係ないだろ！色白なのも細いのも、元からだ！！それに勝手に向こうが勘違いするんだから、俺のせいじゃない！！」なんだか悔しくて、捲し立てて教室を飛び出した。

小さい頃から好き嫌いが多かった俺は、5歳くらいから焼きそばパンを食べる様になった。

父の転勤先で冒険と称してひとりで外に出たのだが、帰り道がわからなくなってしまった。そんな時、同じ年くらいのあいつが焼きそばパンをくれたのだ。

「っ…お…うち、わか…んない…ひくっ…」ただ淋しかった。

「おとこはかんたんにないちゃいけないんだぞ！こい！」泣きじゃくる自分に偉そうに説教したあいつ。しかし勇はこの少年が嫌では無かった。繋いでくれた手がとても暖かったからだ。

「これ、やるから！」にかっとな笑って焼きそばパンを手渡された。

「…？なに…これ？」初めて見る。

「えー？やきそばパンしらねえねの？それにな、ただのやきそばパンじゃねえぞ。うちのおとうさんがつくったんだからな！」自分のことの様に嬉しそうに話すあいつ。

「…結局、名前聞き忘れたんだよな。歳も同じくらいなのは、なん

となくわかったけど、確かじゃないし…。」屋上でひとり呟く。それから、焼きそばパンをそのままにしてきたことに気づく。

（まだあんなにあつたのに…時雨のやつが変なこと言い出すから…。）そんな風に考えたらまた腹がたってきた。

「俺が…なんだって？」屋上のドアに寄りかかる様にして時雨が立っていた。

「え…？あ、…時雨！…声…出た？」途端に恥ずかしくなる。

「出たた、バツチリ。まあ、俺も言い方が悪かったから、いいけどさ。…せつかくだから買ってやった焼きそばパンは食えよ。」焼きそばパンを差し出す時雨。

（あ…なんかデジャビュ…。）

「…あつ…りがと…。」急なことで頭が追いつかず、ついお礼を言っってしまった。

「へー、お礼とか言えるんじゃない！」目を丸くして時雨が顔を覗き込んでくる。

「そ、だ！さつきはごめんな。危ないやつとかいるかもしれないしれないから、気をつけろって言いたかったんだよ。」顔の前で手を合わせ、上目遣いで勇を見てくる時雨。

「ふーん。ねえ！そんなこといいからさ、俺がなんで焼きそばパン好きになったか知りたくない？ある人の影響なんだけど…。」

（時雨は覚えているだろうか。）

「はあー？んなのわかるかよ。…歩さんとか？」時雨が手を組んで考え込む。

「ぶつぶー！罰として時雨には一生教えてあつげない！！」口の前で指で小さな×を作る。

「わけわかんねー！」

そう言いながらも、時雨も嬉しそうに笑った。

キミだけ忘れてるなんて悔しいから…きつと思ひ出させてあげる。

誰のせいで、こんなにも焼きそばパンが…キミが…好きになったのか。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7703k/>

---

『既視感』

2010年10月21日23時48分発行